

山城北保健所管内の感染症発生動向調査

(ARI 定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

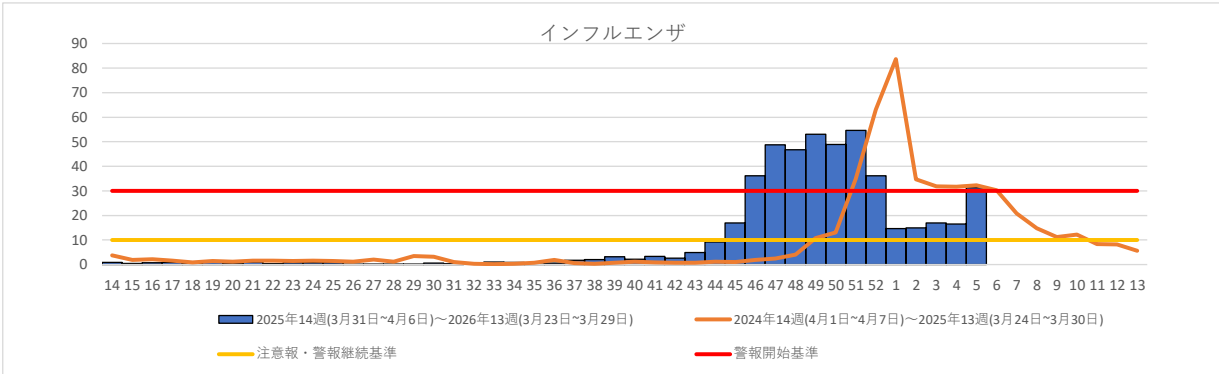
2026年 第5週 (1月26日～2月1日)

今週のコメント

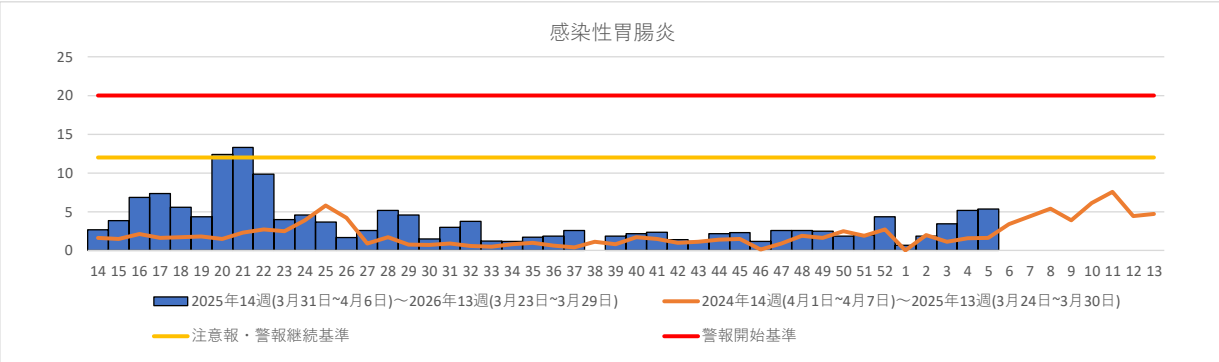
- 「インフルエンザ」の定点あたりの報告数は31.33 (4週16.56、3週17.00) と増加し、警報継続レベルを超えています。
- 「咽頭結膜熱」「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎」の報告数が増加しています。手洗い、手指消毒、咳エチケット、こまめな換気等の感染症予防を行いましょう。
- ノロウイルス等の「感染性胃腸炎」による集団感染の報告が増えています。嘔吐物の処理や消毒には、次亜塩素酸系消毒液を使用しましょう。調理や食事前には手洗いをしっかり行い、食材は十分加熱 (中心温度85℃以上90秒以上) して食べる等、感染に気を付けましょう。

<2025年度と2024年度の比較>

インフルエンザ (定点把握疾患) 山城北保健所管内週当たり報告数 参考: https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/2025ful_4.html



感染性胃腸炎 (定点把握疾患) 山城北保健所管内週当たり報告数



定点把握疾患

< 特定の医療機関 (定点医療機関) を定め、その医療機関を受診した患者の数を基に、流行状況を把握 >

疾患名	定点あたりの報告数 (前週比)	疾患名	定点あたりの報告数 (前週比)
インフルエンザ	31.33 (1.89)	手足口病	— (0.00)
新型コロナウイルス感染症	1.44 (1.18)	伝染性紅斑	0.17 (1.00)
RSウイルス感染症	0.17 (0.25)	突発性発しん	0.50 (0.00)
咽頭結膜熱	7.33 (1.47)	ヘルパンギーナ	— (0.00)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00 (0.56)	流行性耳下腺炎	0.17 (0.00)
感染性胃腸炎	5.33 (1.03)	急性出血性結膜炎	— (0.00)
水痘	0.33 (0.40)	流行性角結膜炎	— (0.00)

定点あたりの報告数 = 1 週間の報告件数 / 定点数

警 報: 1 週間の定点あたり報告数が、ある基準値 (警報の開始基準値) 以上の場合に発生します。

前の週に警報が発生していた場合、1 週間の定点あたり報告数が別の基準値 (警報の継続基準値) 以上の場合に発生します。

注意報: 警報が発生していないときに、1 週間の定点あたり報告数が、ある基準値 (注意報の基準値) 以上の場合に発生します。

全数把握疾患

< 全ての医療機関から医師の届出が義務付けられている感染症 >

分類	報告
1 類感染症	報告なし
2 類感染症	報告なし
3 類感染症	報告なし
4 類感染症	報告なし
5 類感染症	百日咳(1件)

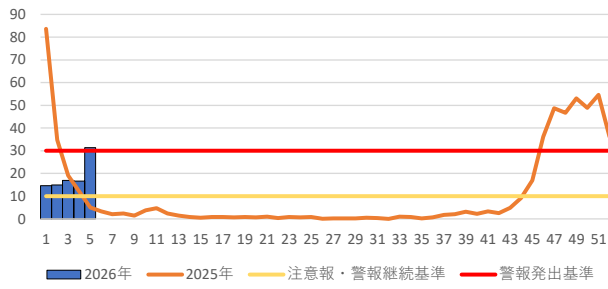
※このデータは速報値であり、今後変更等が行われる可能性があります。ご了承ください。

参考: 京都府感染症情報センター

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

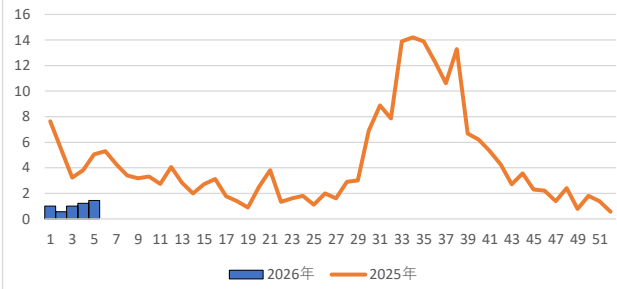
山城北保健所管内定点当たり報告数推移

インフルエンザ



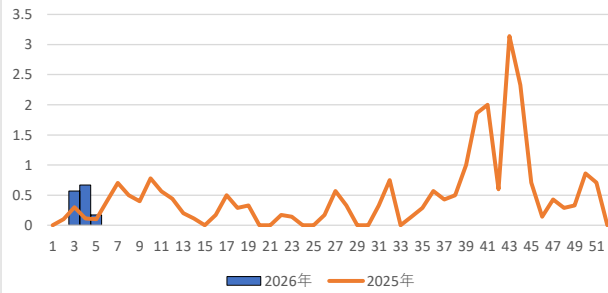
新型コロナウイルス感染症

警報基準なし

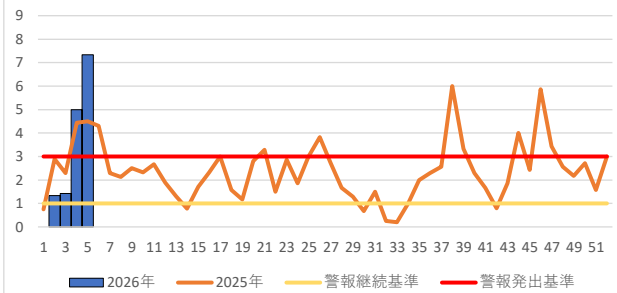


RSウイルス感染症

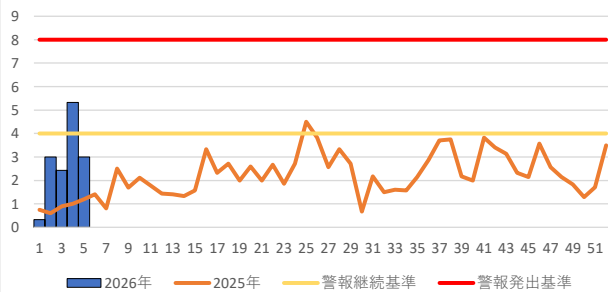
警報基準なし



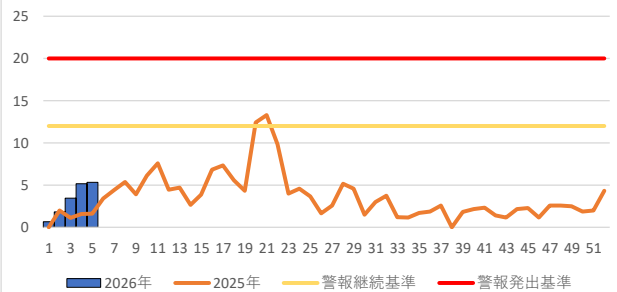
咽頭結膜熱



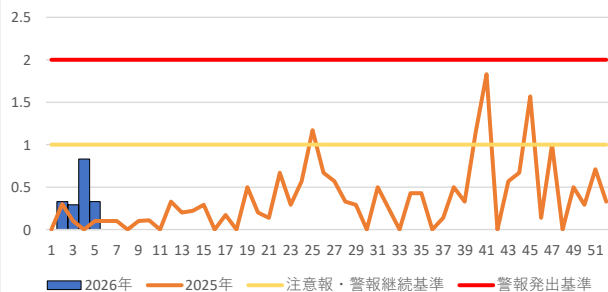
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎



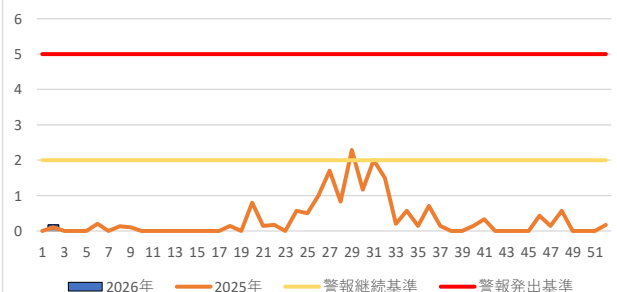
感染性胃腸炎



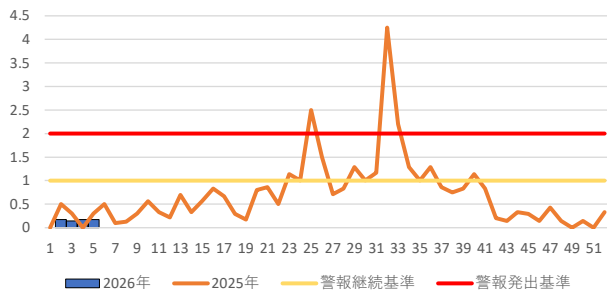
水痘



手足口病

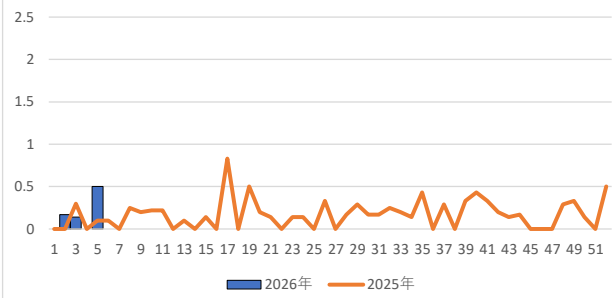


伝染性紅斑

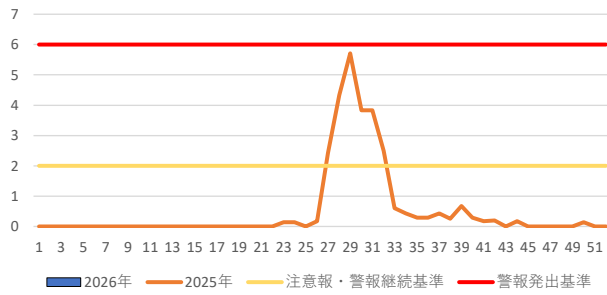


突発性発しん

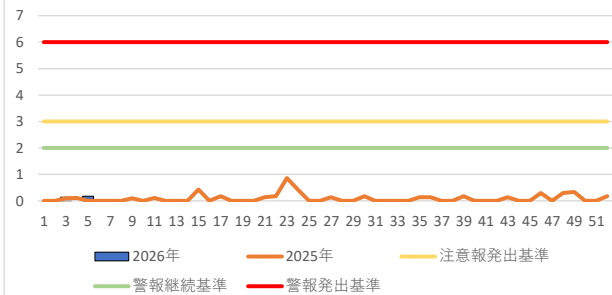
警報基準なし



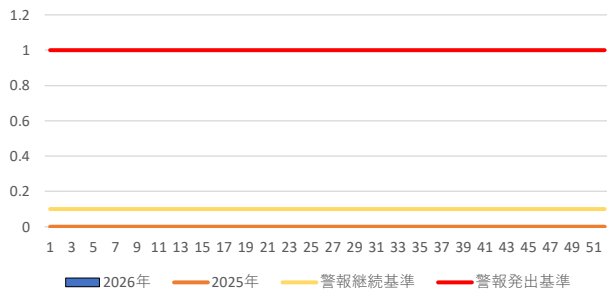
ヘルパンギーナ



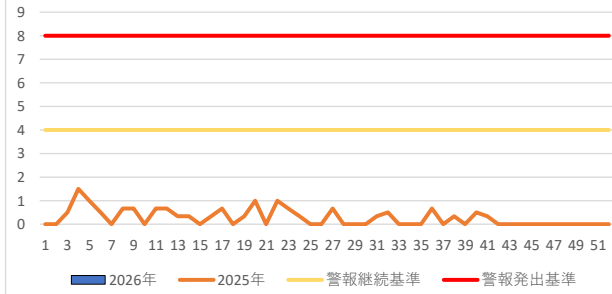
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



急性呼吸器感染症（ARI）とは

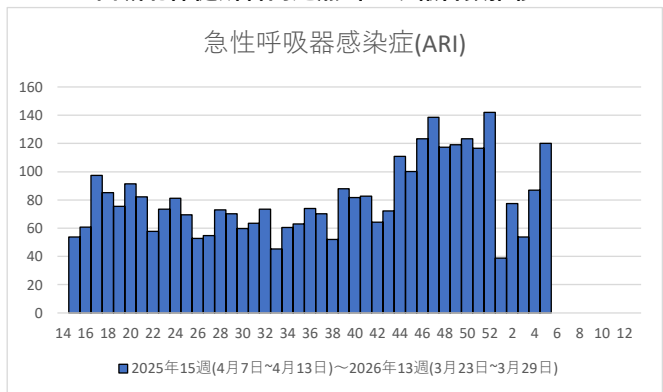
急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日からARIが感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。以下の症例定義（※）を満たす場合に報告対象となることから、インフルエンザやCOVID-19等と診断された場合でも、ARIの症例定義の症状があれば両方の報告対象となります。

※ 咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	定点あたりの報告数（前週比）
急性呼吸器感染症（ARI）	120.00（1.38）

山城北保健所管内定点当たり報告数推移



※ 急性呼吸器感染症：2025年4月7日から集計を開始

参考：京都府感染症情報センター 京都府におけるARI発生状況

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/ari.html>